

p26 「一問一答」

1. 副交感神経の節後線維の末端から放出される神経伝達物質は、アセチルコリンである。
2. ベラドンナ総アルカロイドは、主に鎮痛鎮痙薬に配合されている抗コリン成分である。
3. スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、他の抗コリン成分と比べて脳に移行しやすいが、肝臓で代謝されにくく、作用時間が長い。
4. 副交感神経が優位になると、消化管の運動や胃液の分泌は亢進する。
5. 抗コリン成分を配合した薬剤を服用すると、副作用として眼圧上昇や目のかすみ・異常なまぶしさ、口渇、排尿困難等が現れやすい。
6. スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、主に胃腸薬に配合されている抗コリン成分である。
7. 副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンの働きを強める目的で抗コリン成分が配合されている。

【解答】

1. ○
2. × ベラドンナ総アルカロイドは、鼻汁の分泌やくしゃみを抑えることを目的として主にかぜ薬や鼻炎用内服薬に配合される抗コリン成分である。
3. × スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、他の抗コリン成分と比べて脳に移行しやすいが、肝臓で速やかに代謝されるため、作用の持続時間は短い。
4. ○
5. ○
6. × スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、主に鎮暈薬に配合されている抗コリン成分。胃腸薬に配合されている抗コリン成分はブチルスコポラミン臭化物。
7. × 抗コリン成分は、副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンの働きを抑制する。